

**令和3年度 第1回 防府市地域福祉推進協議会
会議結果 要旨等**

日 時	令和3年11月19日（金） 午後2時～午後3時30分
場 所	防府市文化福社会館 3階9号会議室
出席者	<p>【委員】 草平委員、長谷川委員、石田委員、内田委員、山崎委員、島田委員、 松永委員、池永委員、中村委員、河田委員、山野委員、湯面委員、 岡田委員、高橋委員、秋定委員、大下委員 （欠席：松村委員、齊藤委員、椎木委員、村田委員）</p> <p>【行政等】 防府市健康福祉部次長 防府市社会福祉協議会常務理事</p> <p>【事務局】 防府市社会福祉課、防府市社会福祉協議会</p>
傍聴者	あり（1名）

※ 以下、会議結果については、発言等の要旨のみを簡略化しています。

1 開 会

2 あいさつ

<市健康福祉部次長あいさつ>

令和3年度からスタートした第三次計画の期間中には、市社会福祉協議会の新庁舎への移転もあり、福祉分野の関係各課と市社協が一体となった福祉部門の総合窓口を設置するなど、市民の課題に寄り添い、丸ごと受け止めることができる相談体制の構築を図り、地域福祉をより一層推進していけるものと考えている。

委員の皆様の関心なご意見を賜り、第三次計画を推進してまいりたい。

3 議題

(1) 「第二次防府市地域福祉計画・防府市地域福祉活動計画」 【平成28年度～令和2年度】の取り組み状況評価まとめについて

<事務局（市社会福祉課、市社会福祉協議会）説明>

～【資料1】実施目標計画（進行管理シート）の評価について

【資料2】「第二次防府市地域福祉計画・防府市地域福祉活動計画」
【平成28年度～令和2年度】の取り組み状況評価まとめ

【資料3】「第二次防府市地域福祉計画・防府市地域福祉活動計画」
【令和2年度】実施目標計画 進行管理シート

説明～

<委員A>

評価の基準について、資料1の裏面の評価の基準によると、評価基準には、3つの項目（取組状況、目標達成度、必要性・有効性）があるが、資料2に示されている評価は、総合的に判断されているのだと思うが、どの項目をとってこの評価になっているのか、わかるようにしてほしい。今年度からではなく、来年度以降の評価でそのようにしてほしい。資料3の進行管理シートはそのままでもいいが、単年度の評価の際には、一覧表の方をそのようにお願いしたい。

資料3の進行管理シートについて、5年間の年度ごとの取組結果がまとめてあるが、内容の同じ年度が見かけられる。そのようなときは、同上といったように書いてもらおうと、読む側の時間短縮になる。来年度以降の評価の際にお願いしたい。

資料3の実施目標計画No.19の避難行動要支援者名簿の提供の関係について、名簿の提供を受けた自治会数が120とあるが、私の方で調べたところでは、97しかなかった。この数字は、自治会でなく、民生委員が受け取った数字が含まれているのではないかと。また、名簿情報の更新をしていかないと、有効に活用できる名簿にならない。有効に活用できる名簿にしてほしい。私共も協力していくので、しっかりやってほしい。

<事務局（社会福祉課）>

評価の基準については、議題2でも触れるが、第三次計画から見直しを考えていた、一緒に検討していきたい。また、進行管理シートについては、同様の表記が目立っているので、書き方を工夫していきたい。また、避難行動要支援者名簿の提供協定締結自治会数については、重複等は整理して、120であると担当課に確認しているが、あらためて確認する。

<委員B>

資料2の3枚目、基本目標Ⅱのまとめの2行目について、「市市民活動支援センターをはじめとした団体が、幸せます防府市子ども食堂ネットワーク協議会を設立し」とあるが、ここは、市民活動支援センターではなく、当センターの指定管理を受けているNPO法人が正しい。

<事務局（社会福祉課）>

確認して、修正する。

<委員 C>

さきほどの実施目標No.19の避難行動要支援者名簿の提供の関係について、本来100%が理想である。協定締結状況が47%という状況であり、毎年の更新もおぼつかないと聞いている。この問題は、命に関わる問題である。より具体的にもう少し進めていく方向を考えてほしい。

<事務局>

ご意見について、担当課に今後の更新方法、協定の進め方等について、話をしていきたい。

<議長>

避難行動要支援者名簿の提供の締結は、高齢福祉課、障害福祉課が別々にされているのか。

<事務局>

別々ではなく、高齢福祉課が主となってしている。

<議長>

実施目標計画の中でも、福祉教育の実施が評価として、推進されているがどうか。

<委員 D>

福祉教育にも取り組んでいただき大変ありがたい。学校もできることに取り組んでいきたい。

(2) 「第三次防府市地域福祉計画・防府市地域福祉活動計画」 令和3年度の取り組みについて

<事務局（市社会福祉課、市社会福祉協議会）説明>

～【資料4】「第三次防府市地域福祉計画・防府市地域福祉活動計画」
実施目標計画一覧

【資料5】「第三次防府市地域福祉計画・防府市地域福祉活動計画」
【令和3年度】実施目標計画 進行管理シート

【資料6】「第三次防府市地域福祉計画・防府市地域福祉活動計画」
実施目標計画（進行管理シート）の評価について

説明～

<議長>

事務局から新たな取組について、説明があったが、重層的支援体制整備事業については、委員Eどうか。

<委員 E>

この事業については、行政、社協も国、県、他の自治体の動きを見ながらやっているところで、正直わからない面が多いと思うが、全体として、皆さんに国の動きとしてご承知いただきたい内容を説明させていただく。国の動きで重層的支援体制整備事業は、まだ移行期にはあり、全国的に始めていない自治体が多いが、山口県も動き出すようである。今後、防府市は、どのようにしていくのかということ。

防府市は、新しい庁舎の建設にあわせて令和6年に総合相談窓口を作っていくとしたが、人口規模やアクセスを考えたときに本当に市一か所でもいいのかどうか。

また、コミュニティソーシャルワーカーの配置についても、第二次計画の実績として、配置はできているが、改めてどういう機能を持たせるのか、社協の組織改編と併せて考えるときなのかと思う。計画を策定した時点と、それ以降、一、二年の大きな流れで、国の方が変わったところで、改めて、この協議会を含めて検討をしていかないといけないのではないかと考える。

<議長>

この間の流れと言うのが、高齢者部門で成功したという地域包括ケア、防府市では、四か所の地域包括支援センターを作って、そこに医療、保健、介護、福祉の専門職と連携したものを各地域で作ってきた。それをもう少し広げて、8050問題と言われるような高齢者だけの問題でないものもなど、すべての福祉政策が必要な人（高齢者福祉、障害福祉、児童福祉）に対応するということで、包括的支援体制というのが、平成29年の法改正でできた。そのあとに、令和2年に重層的支援体制という形で、それぞれ縦割りの予算配分を超えて、市にお金が交付されるようなくみになってきた。現在の、包括支援センターの中に児童や障害その他のいろいろな福祉について相談できる体制を作っていくというしくみに変えていくのかどうか

ということ。

<委員 E>

包括支援センターであるべき必要はないが、人口の大きな自治体は、すでに地域包括支援センターがあるので、それを活用する自治体が多いということ。防府市はどうなっていくのか。

<事務局（社会福祉課）>

昨年度の計画策定の段階で、総合相談窓口の設置のことまでは、計画に記載し、総合計画にも記載の決定事項であるが、その設置方法の中に、重層的支援体制整備事業を含めていくのか、どのようにそれと併せて行っていくかということについては、まだ方向性はない、これから検討していくところ。

<議 長>

重要なこと。今後、検討していく。考えていかないといけない。

議題 2 のもうひとつの件。第三次の評価の基準について、評価を 4 段階に変更することについて、防府市の行政評価の標準的なことということ。アウトプットの可視化は、この次の課題。では、4 段階にするということについて、異議はあるか。

～委員全員、異議なし～

<委員 A>

社会福祉をするための財政基盤について、計画書の P85、86 に書かれたが、研究するという表現になっている状況。福祉の財源について、社協で検討をお願いしたいのは、クラウドファンディングやテーマ型募金について、社協が事業するためのものではなくて、福祉のいろいろな団体が事業をやるときに、こういうものがあると紹介できるようにしてほしい。

<委員 E>

クラウドファンディングは、自治体の方は難しいところがある。地域の活動団体に出していくというものであれば、社協が、各団体に方法を支援していくのもよい。工夫された他市の社協のホームページ等を参考に。ここは、地域福祉の推進というところで社協が担っていくことが求められているので、それができるとプラスアルファである。

<議 長>

先駆的な例を見ながら、防府市社協も自主財源やあるいは、関係する団体への寄付の集め方といったところを支援してはどうかと考える。

では、まとめとして、さきほどの第三次の評価については、4 段階でいく。どうしてこの評価になったかということについては、難しいが、今後、可視化していく。

4 その他

<社会福祉協議会常務理事あいさつ>

委員の皆様、時間が制約された中で貴重なご意見をいただき、大変有意義な協議ができたことを感謝申し上げます。皆様からのご意見を参考とさせていただき、防府市と連携を密にして、計画を着実に進め、新たな課題にも対応してまいります。